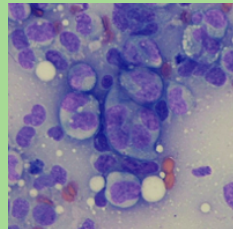


(6)細胞診・クローナリティー解析

検体 ; 再発 4回目の結節

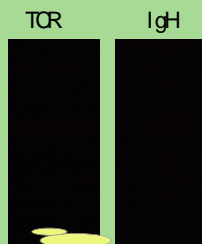
(細胞診)

- ・細胞異形の強い独立円形細胞が多数認められる。
- ・独立円形細胞は、組織球系細胞と判断される。



(クローナリティー解析)

- ・IgH鎖およびTCR鎖に単一バンドは認められず。



細胞診・クローナリティー解析の結果から、「組織球性肉腫」と診断される。

(7)予後

- ・ロムスチンに変更したところ、非常に良好な反応

本症例の様に、病理組織学的検査の評価 (2) と臨床症状の挙動 (3) が異なった場合、または細胞診ではリンパ腫が疑われたものの確定診断には至らなかった場合 (4) などに、クローナリティー解析を行なうとリンパ球の腫瘍性変化を客観的に評価することが可能であり、リンパ球系腫瘍の診断精度の向上につながる。

謝辞

症例をご提供いただいた、
平野動物病院 平野健先生
オオタニ動物病院 伊藤雄悟先生
に深く感謝いたします。

- ・クローナリティー解析により診断精度向上
- ・バンドの有無で判定されるので、飼い主への説明に貢献

FAQ 集

Q : 細胞診や組織学的検査と何が異なりますか。

A : 細胞診や組織学的検査では、診断医により診断が異なる場合があります。クローナリティー解析では、非常に客観的に判断できます。また T/B リンパ球のどちらが腫瘍性に増殖しているかが明らかになります。

Q : 遺伝子検査で単一バンドが検出されたら、腫瘍性と断定しても良いですか。

A : 断定はできませんが、高確率に腫瘍性と判定できます。クローナリティー解析は、T/B リンパ球の単一増殖を検出します。腫瘍性に増殖しているリンパ球は単一に増殖していますが、感染症などにより反応性にリンパ球が単一に増殖することもあります。クローナリティー解析だけでなく、他の検査を併せると診断精度が向上します。

Q : クローナリティー解析でリンパ球の単一増殖が検出されなければ、リンパ球系腫瘍は否定できますか。

A : 完全には否定できません。クローナリティー解析では T・B リンパ球の腫瘍性増殖を検出することは可能ですが、Non-T/Non-B タイプのリンパ腫は検出来ません。また T/B リンパ球が腫瘍性に増殖していても、稀な症例では検出できない場合があります(資料 1)。

Q : クローナリティー解析でリンパ腫とリンパ球性白血病を区別できますか。

A : 区別できません。クローナリティー解析は検体中で T/B どちらのリンパ球が腫瘍性に増殖しているかを検出する検査であり、腫瘍化したリンパ球がどこで発生したかは明らかにできません。

Q : クローナリティー解析でグレード分類やステージ分類はできますか。

A : 出来ません。クローナリティー解析は検体中で T/B どちらのリンパ球が腫瘍性に増殖しているかを検出する検査であり、腫瘍の悪性度や転移などは明らかにできません。

Q : リンパ節は腫脹していますが、採材できません。血液でも検査できますか。

A : クローナリティー解析では、検体中に細胞・組織が含まれていれば検査は可能です。しかし、検体中に腫瘍化したリンパ球が存在しない場合、「異常なし」という結果になります。血液中に異常なリンパ球が存在することを確認してから検査を行うことをお勧めします。

Q : スライド標本から検査できますか。

A : 細胞診に用いたスライド標本からの検査が可能です。アルコール固定・染色・封入等は検査に影響しません。病理組織標本からの検査も可能ですが、お勧めしません。検査はホルマリン固定により阻害されます。阻害された場合には、腫瘍性増殖の有無が判定できません(判定不可)。